

第19回放送番組審議機関 議事概要

■開催年月日：平成28年11月4日（金）

■開催場所：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社 会議室

■Dlife放送番組審議機関審議委員（平成28年11月4日現在）：

北村みどり（三宅デザイン事務所 代表取締役社長 21_21DESIGN SIGHT 代表取締役社長）

齊藤裕人（日本大学芸術学部映画学科教授）

中村伊知哉（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）

早見優（歌手）

ピーター・バラカン（ブロードキャスター）

湯川れい子（作詞家・音楽評論家、エッセイスト）

吉田知子（株式会社oricon ME 元『オリ★スタ』編集部編集長）

四方田浩一（映像メディア総合研究所 代表）

*あいうえお順、敬称略

■出席した委員（敬称略）

齊藤裕人（日本大学芸術学部映画学科教授）

中村伊知哉（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）

ピーター・バラカン（ブロードキャスター）

湯川れい子（作詞家・音楽評論家、エッセイスト）

四方田浩一（映像メディア総合研究所 代表）

*あいうえお順、敬称略

■議題

- ・放送番組種別の承認（平成28年4月～平成28年9月分）
- ・視聴者からの問い合わせ状況報告（平成28年7月～平成28年9月分）
- ・10月 番組改編と編成戦略について
- ・番組審議（作品紹介とディスカッション、プロモーションの紹介）

< 審査番組 >

- ・「エレメンタリー ホームズ&ワトソン in NY」第1話
- ・「男子旅」第1話
- ・「ボンダイビーチ動物病院 クリスのバカンス！」第3話

■議事概要

○放送番組種別の承認

一当社より放送番組種別について平成28年4月～平成28年9月分までの6カ月間の各第3週目の実績を説明し、承認された。

なお、審議委員より「娯楽」の割合が減少した理由について質問がなされたため、その理由を説明して、回答した。

※詳細は、ホームページ上に公開。

○平成28年7月～平成28年9月までに、カスタマーサービスに寄せられた問い合わせ状況について、入電者の男女比率、年齢層、視聴者からの問い合わせや要望、また再放送の要望が高かった番組を報告し、確認された。

また、9月15日（木）午前09時58分38秒～午前10時06分23秒までの間にBSAT-3b衛星の姿勢異常により放送障害が発生し、同日中に対応が行われたことが報告され、確認された。

○10月番組改編のポイントについて、以下の3つの柱を中心に番組宣伝映像を交えながら説明を行った。

1. ディズニー作品の放送枠「ディズニー・タイム」の編成を強化した。
 - ① 人気アニメーション「ちいさなプリンセス ソフィア」を連日放送。
 - ② 人気アニメーション「フィニアスとファーブ」を2話連続放送。
 - ③ 人気ディズニー映画を、年末までのディズニー社内のイベントと連動し、3作品放送。
2. 海外ドラマの新シリーズの放送開始と、人気シリーズの続シーズンの放送開始で好評なドラマの編成の強化を更に図った。
 - ① 新ドラマシリーズ「エレメンタリー ホームズ&ワトソン in NY」の放送開始。
 - ② 「BONES-骨は語る- シーズン11」「バーン・ノーティス元スパイの逆襲 シーズン7」「デビアスなメイドたち シーズン3」等、大人気シリーズの続シーズンの放送開始。
 - ③ Dlifeオリジナル制作番組「男子旅」を夏の特番を経てレギュラー番組として放送開始。
3. 来年の開局5周年を記念し、特別編成や特別施策を企画中であることが紹介された。

○委員からは、事前視聴、及び当日上映された番組に対し、それぞれ以下のような意見や感想が寄せられた。

— 「エレメンタリー ホームズ&ワトソン in NY」第1話について、原作自体の良さを活かしつつ、ワトソンが女性というユニークな設定を、東洋人であるルーシー・リューが演じることで魅力が増している。また、日本語吹替え版の完成度が高く、日本の視聴者を引きつける要因になっていると思われる。ドラマの展開に伴いどんどん引き込まれ続きがみたくなるようなドラマであるとの高い評価が全員から寄せられた。

— 「男子旅」第1話 について、ドローンの駆使等、自転車の旅ならではの風景が楽しめるよう、撮影の苦勞や工夫が伺える、という感想が寄せられた。同時に、出演者の若手男優3人の会話や感想を更に掘り下げるようなナレーション等での解説があると、各地の魅力が詳細まで伝わり、より楽しめるのではないか、また登場人物の人数を絞ってみても良いのではないか、という意見が寄せられた。

— 「ボンダイビーチ動物病院 クリスのバカンス！」第3話について、既に好評放送中の「ボンダイビーチ動物病院」シリーズのクリス獣医の人柄の良さが前面に出て大変楽しめる旅番組である、という好評が全員から寄せられた。また、テンポが良く見やすいが、同時にもっと1箇所をゆっくり紹介されたら更に楽しめるのでは？という意見も寄せられたが、日本の番組とのテンポの違いは国民性に起因するものではないか、という考察も寄せられた。

— オリジナル・アニメーション「ツムツム寿司」が“第6回衛星放送協会オリジナル番組アワード（アニメ部門）”を受賞したことが報告され、今後放送予定の最新作と共にその場で上映され、賛辞を受けた。また現在放送中の音楽情報ミニ番組「Miracle Vell MagicのMusic Voyage」第2話も同時に視聴され、大変興味深い番組であるとの感想が寄せられた。

以上